第１分科会　研究課題「教育課程に関する課題」

研究主題「社会に開かれた学校づくりを目指す教育課程の在り方」
～学校と地域が一体となった教育活動から見えてきた課題の整理を通して～

東諸県支会　国富町立森永小学校　福嶋　芳人

１　主題設定の理由

これからの学校教育は、よりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携しながら、児童・生徒にこれからの時代に必要な資質・能力を育むことが望まれている。そこで、東諸県支会では、教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用し、学校の目指すところを社会と共有しながら「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて連携を推進することが責務であると考え、本主題を設定した。

２　研究のねらい

社会に開かれた学校を創るための教育課程の在り方を究明する。

３　研究の概要と成果

(1) 研究計画

本支会は国富町と綾町の小学校５校、中学校４校の計９校で構成されている。これまで、コロナ禍ということもあり、地域と連携した活動を自粛した時期が続いていた。そこで、２年間計画の１年目である本年度は、各校の実態に応じて、地域の人的・物的資源を活用した取組を行い、その後、明確になった課題を整理することから始めた。２年目は、本年度明らかになった課題を解決するための仮説を基に検証を行うことにした。

(2) 研究の仮説

学校と地域が目標を共有して人的・物的資源を活用した連携を行い、その後の成果や課題を整理することで、社会に開かれた学校を創るための教育課程の在り方が明確になるであろう。

(3) 研究内容

①　学校と地域が一体となり、地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進

②　　成果と課題の整理

(4) 各学校の実践と考察

①　「二番穂刈り」（森永小学校）

校区内の田んぼで早期水稲の刈り取り後に生える「二番穂」を収穫し、ツルの越冬地で有名な鹿児島県出水市にツルの餌として寄贈している「二番穂刈り」は、1979（昭和 54）から続く森永小学校の伝統行事である。【写真1】

【写真１】二番穂刈り

田んぼは地区の方にお借りし、保護者に協力をお願いしてきた。地域の方々と一緒に教育を展開する場合、打ち合わせを重視し、活動の目的を協力してくださる方々に伝えることにした。事前の打ち合わせを重視した結果、今回刈り取った二番穂は廃棄されるはずだったが、再活用を通して環境を大切にする意識の高揚という点で、学校と地域が一体となった指導が展開された。しかし、地域の方々の願いという点についてもう少し明確にしておくとよかった。

②　「木脇地区コミュニティ・スクール全体会」（木脇小学校）

木脇小学校では、平成２０年から学校支援地域本部が設置され、地域と連携した教育活動を行っている。昨年度より、木脇中学校と共にコミュニティ・スクールとして取り組むことをきっかけに、地域学校協働活動に限らず、小・中学校で行われる地域との活動を洗い出し、今後参加していただけそうな人材等も含め、整理を行った。また、教育活動に関わる全ての団体等に呼びかけ、教職員を交えて、１２月に「木脇地区コミュニティ・スクール全体会」を行い、**【写真２】**目標の共有や木脇地区の課題について話合いを行った。

【写真2】コミュニティ・スクール全体会

その結果、コロナ禍で希薄になっていた地域との活動を見直し、今後の活動につなげることができた。小・中学校職員も合同で出会す

ることで、互いの活動を知ることができた。しかし、今回整理を行った団体等を地域学校協働本部事業にどのようにつなげていくかが課題である。

③　「どんぐりの森」（綾小・綾中学校）

綾小学校・綾中学校では、綾の照葉樹林復元への取組として「どんぐりの植樹」に取り組んでいる。**【写真３】**４月に、ユネスコエコパークセンター関係の方々と一緒に、森から採取したどんぐりの蒔きつけを行った。児童・生徒は、毎日の水やりや発芽の観察に大変意欲的であり、今では１５ｃｍほどに生長している。２～３年後には、この苗を植樹予定である。児童・生徒の実態にあった取組方法や進捗状況など、教職員と関係機関とで打ち合わせを行いながら取り組んでいる。その結果、地域と連携した取組は充実してきた。しかし、長期間の取組であるため、職員の引継や児童・生徒のモチベーションの持続、教育課程への組込が課題である。

【写真3】どんぐりの植樹

④「キャリア教育の推進」（本庄中学校）

『心豊かでたくましく、将来をしなやかに生き抜く生徒の育成』

これは、本庄中学校の教育目標である。今年度より、この目標の具現化に向けて、キャリア教育の推進を柱にこれまでの総合的な学習の時間の取組を再構築することとした。

１学年は、生徒が国富町の魅力ある『人』『もの』『こと』の中から一つを選んで調査、発信し、そのことに関して「くにとみ博士」をめざした活動を行った。町内の農業、商業、経済、インフラ、施設、観光、歴史などに関わる「プロ」総勢３０名ほどから話を聞いた。**【写真４】**このあとは、自分の課題解決に必要な情報を収集するフィールドワークや、収集した情報をまとめ、発表する場を設ける予定である。

その結果、キャリア教育について改めて研修等を通じて理解を深める場をもつことができた。また、総合的な学習の時間を再構築する機会となった。

【写真4】町内のプロから話を聞く生徒

しかし、今後も、引き続き地域と連携した持続可能なキャリア教育になるように工夫していく必要がある。

(4) 成果と課題の整理

①　成果

○　事前の打ち合わせを重視した結果、学校と地域が一体となった取組が充実してきた。

○　コロナ禍で希薄になっていた地域との活動を見直し、今後の活動につなげることができた。

○　小・中学校職員も合同で出会うことで、互いの活動を知ることができた。

○　地域のプロの方々の力を借りることでキャリア教育が充実してきた。

②　課題

○　地域の方々の目標を明確にした上で活動を計画する事が重要ではないかと考える。

○　地域の方々を地域学校協働本部事業にどのようにつなげていくかを明確にする必要がある。

○　転勤のある学校職員、地域の方々、児童・生徒のモチベーションを維持し、持続可能な取組になるための工夫が必要である。

○　教育課程への組込が必要である。

４　次年度へ向けて

○　地域の方々と学校との目標の共有化を図り、どちら側にもメリットがあるという気運を高めるための工夫を行っていく。

○　学校と地域が共に協力しながら教育を展開するための教頭としての役割を明確にしていく。

以上の課題については、次年度の研究で更に探究していきたい。そして、各学校の実態に応じて学校と地域が一体となった教育の実現に向けて、今後もしっかりとした一歩を踏み出したいと考える。